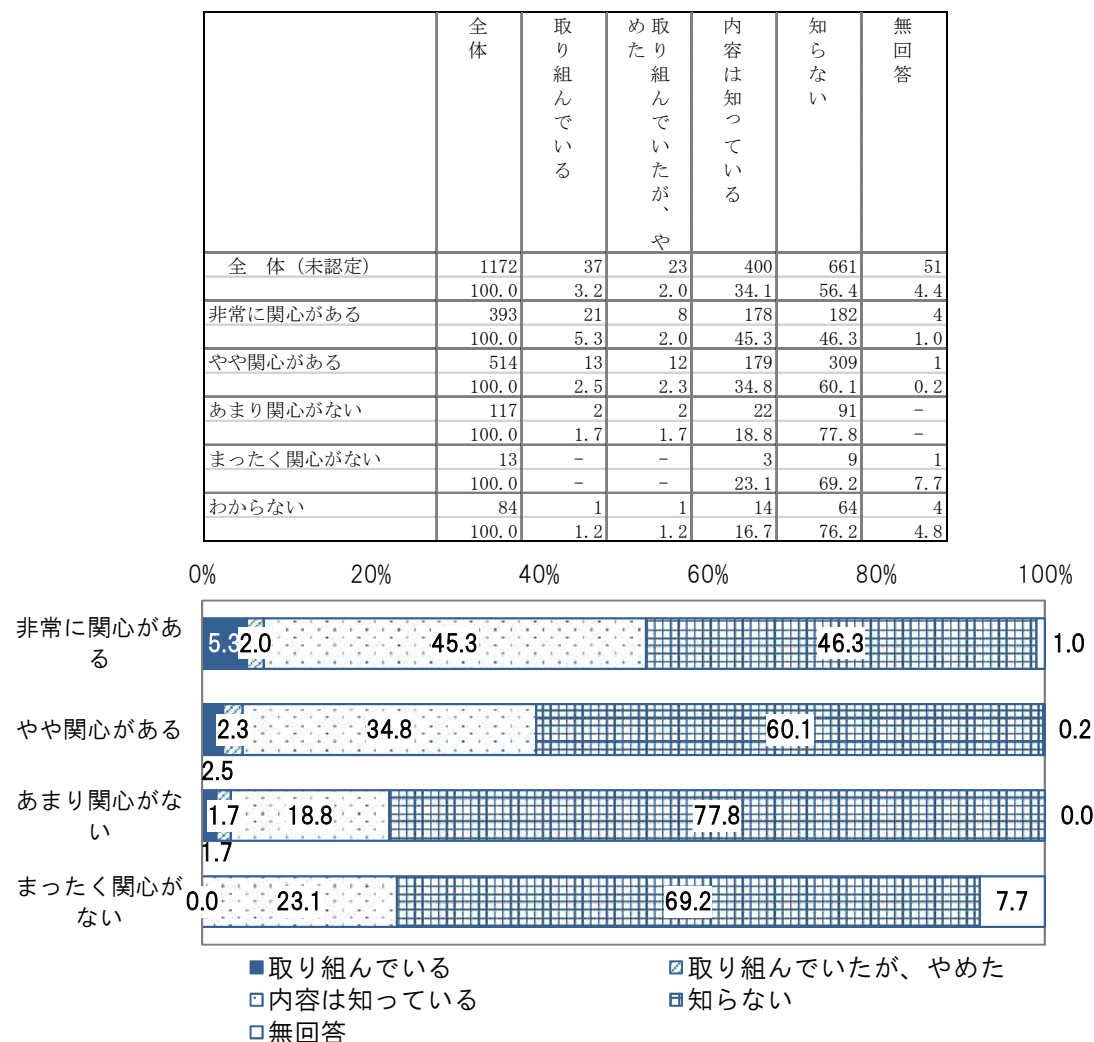


## 尼崎市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（生き生き!!あま咲きプラン） 策定のためのアンケート調査結果（テーマ別集計） 7月18日計画策定部会で頂いた意見

### 1. 【テーマ1】介護予防・フレイル対策の推進について

#### (1) 介護予防への関心度と「いきいき100万歩運動」「いきいき百歳体操」の認知度

（委員意見）「いきいき100万歩運動」や「いきいき百歳体操」について、認知度が低いという結果となっている。一方で、介護予防への関心度においては、回答者の8割近くが介護予防に関心があると回答しており、その回答者の中で、「いきいき100万歩運動」や「いきいき百歳体操」を知らない人に周知していく必要があると思うことから、介護予防に関心がある人にどれくらい認知されているのかをクロス集計してはどうか。



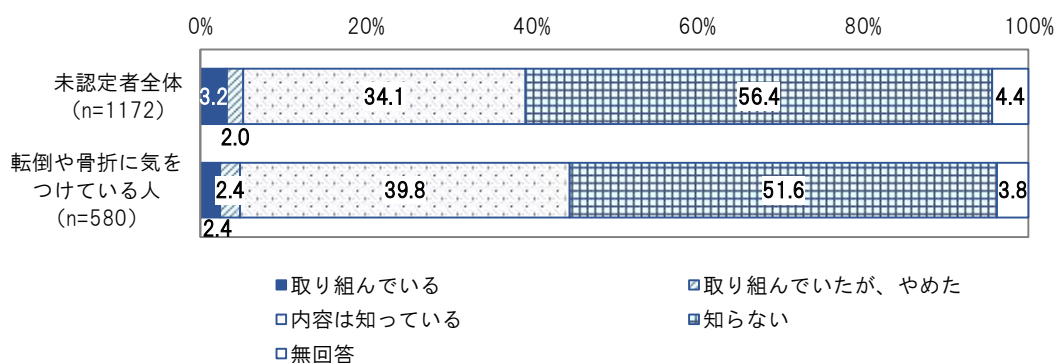
#### 【考察】

クロス集計の結果、【関心がある】層においても、「いきいき100万歩運動」や「いきいき百歳体操」を知らない割合が高いという結果となったことから、今後、更なる事業周知を進めていく必要がある。

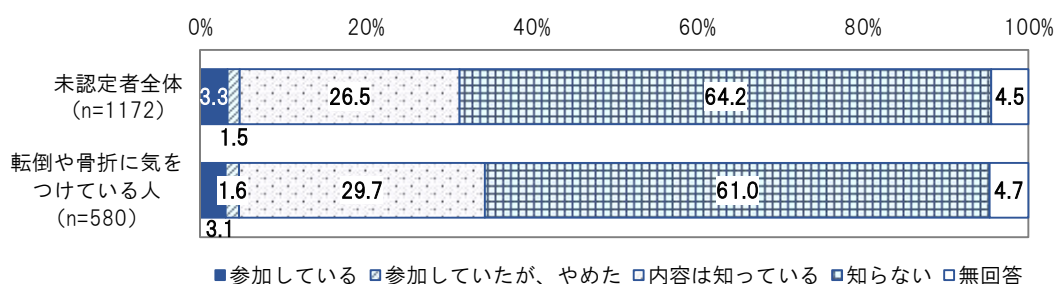
## (2) 転倒や骨折に注意している回答者のうち、「いきいき 100 万歩運動」「いきいき百歳体操」に参加している人の割合

(委員意見) 健康に関して気をつけていることの回答の中で、「転倒や骨折に注意する」と回答した人の割合が高い。転倒や骨折に対する不安をもっている人が、運動不足・筋力低下防止などの取組を行うことが大切であると考えていることから、いきいき 100 万歩運動やいきいき百歳体操などに参加しているのかのクロス集計をとり、実態を把握することも重要ではないか。

### 《未認定者：いきいき 100 万歩運動の参加状況》



### 《未認定者：いきいき百歳体操の参加状況》



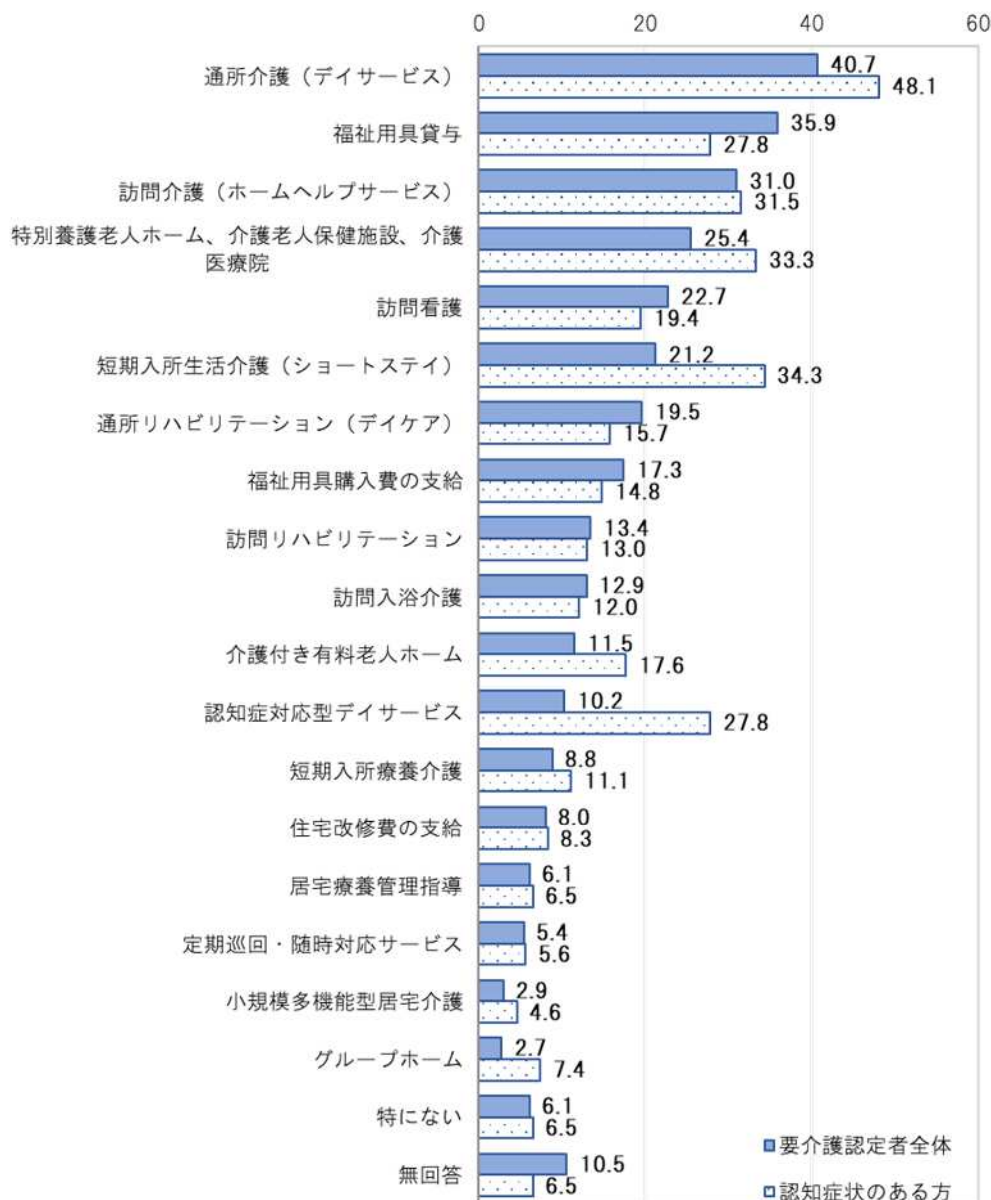
#### 【考察】

転倒や骨折に対する不安をもっていると回答した人の「いきいき 100 万歩運動」や「いきいき百歳体操」への参加状況と、未認定者全体の参加状況の割合に、あまり大きな傾向の変化は見られなかった。

## 2.【テーマ2】「共生・予防」を両輪とする認知症施策の推進について

### (1) 認知症の人とその家族が今後利用したい介護保険サービス

(委員意見) 認知症の人やその家族のニーズを把握するための調査結果をクロス集計などを用いて、把握できないか。介護・介助が必要になった原因が認知症と回答している人の中で、今後利用したい介護保険サービスをクロス集計するなどをしてはどうか。



#### 【考察】

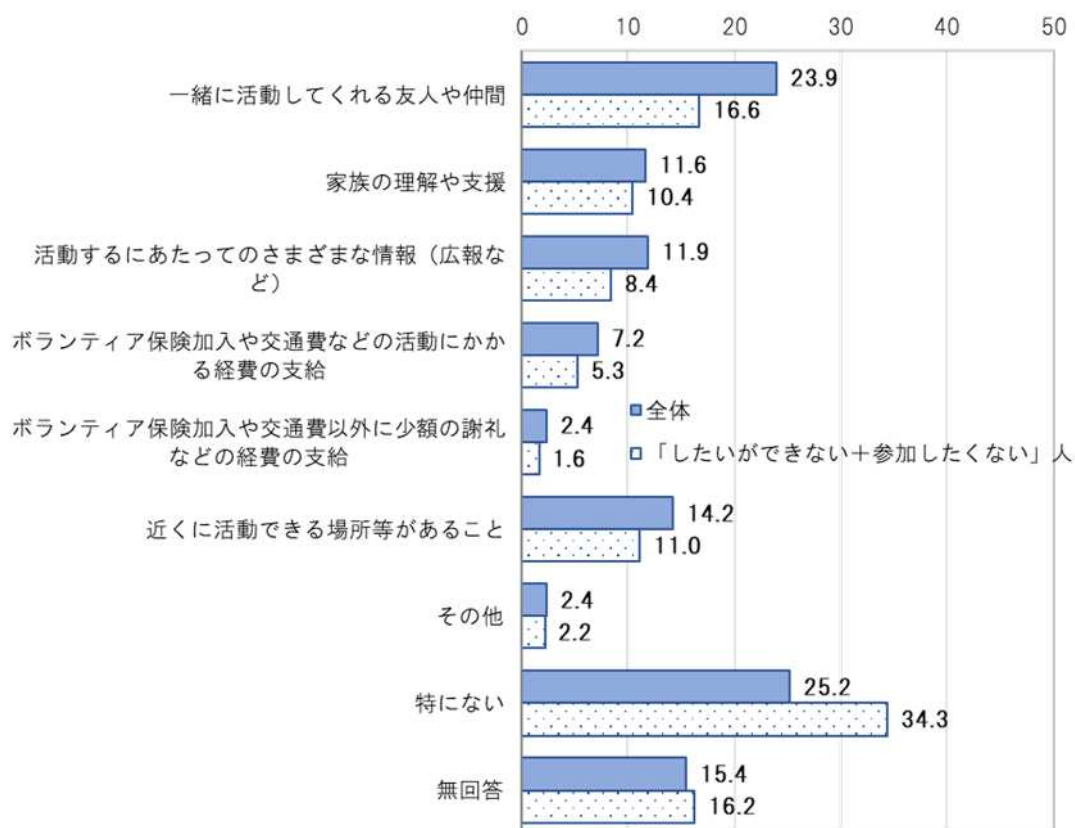
介護・介助が必要になった主な原因が認知症の人では、施設系サービスや通所系サービスの利用意向が高いという結果になっているが、認知症の有無にかかわらず、要介護認定度合いが高い人も同様の傾向があると想定される。また、要介護認定者調査では介助者が回答していることが多いため、回答者の負担が大きいほど、介護・介助者から離れる“預ける”サービスへの利用意向が高いという結果となっている。

### 3.【テーマ3】人と人とのつながりや支え合い、高齢者の社会参加の促進

#### (1) ボランティア活動をするにあたり、必要だと思うこと

(委員意見) 地域活動やボランティア活動への参加の回答の中で、「今後参加したいができない」「参加したくない」と回答した原因を知ることは出来ないか。

	全体	友人と一緒に活動してくれる	家族の理解や支援	活動するにあたってのさまざまな情報(広報など)	ボランティア保険加入や交通費などの活動にかかる経費の支給	ボランティア保険加入や交通費以外に少額の謝礼などの経費の支給	近くに活動できる場所等があること	その他	特にない	無回答
全体	1172	280	136	139	84	28	167	28	295	181
	100.0	23.9	11.6	11.9	7.2	2.4	14.2	2.4	25.2	15.4
現在している	134	59	25	29	23	5	26	3	12	6
	100.0	44.0	18.7	21.6	17.2	3.7	19.4	2.2	9.0	4.5
今後参加したい	231	83	31	45	20	10	56	9	25	14
	100.0	35.9	13.4	19.5	8.7	4.3	24.2	3.9	10.8	6.1
今後参加したいができない	225	44	33	22	10	3	43	7	58	28
	100.0	19.6	14.7	9.8	4.4	1.3	19.1	3.1	25.8	12.4
参加したくない	509	78	43	40	29	9	38	9	194	91
	100.0	15.3	8.4	7.9	5.7	1.8	7.5	1.8	38.1	17.9



#### 【考察】

『参加したいができない』と『参加したくない』を合わせた『参加していない』人の傾向では、ボランティア活動をするにあたって必要と思うことは「特にない」が高いという結果となっている。

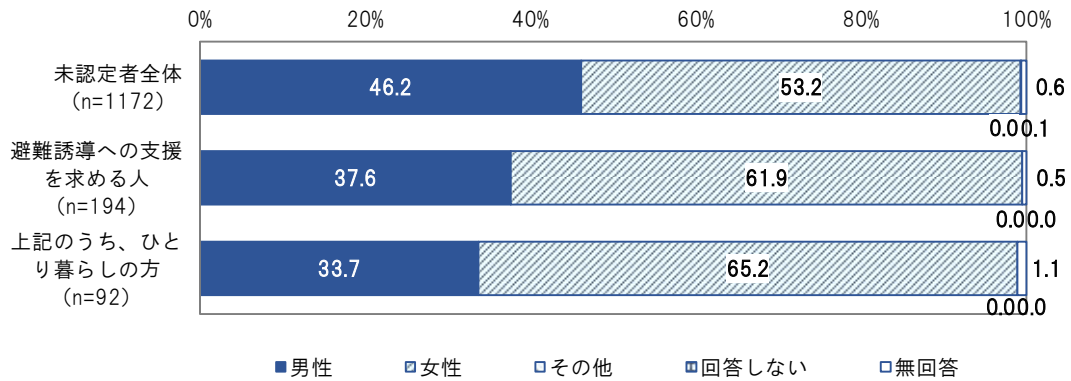
『現在している』人の傾向では、「一緒に活動してくれる仲間」や「活動するにあたってのさまざまな情報(広報など)」が高いという結果となっており、『参加していない』人に対しては、これらの支援を受けることが出来れば、活動につながる可能性もある。

#### 4. 【テーマ4】介護が必要になっても安全・安心に暮らせる基盤づくりについて

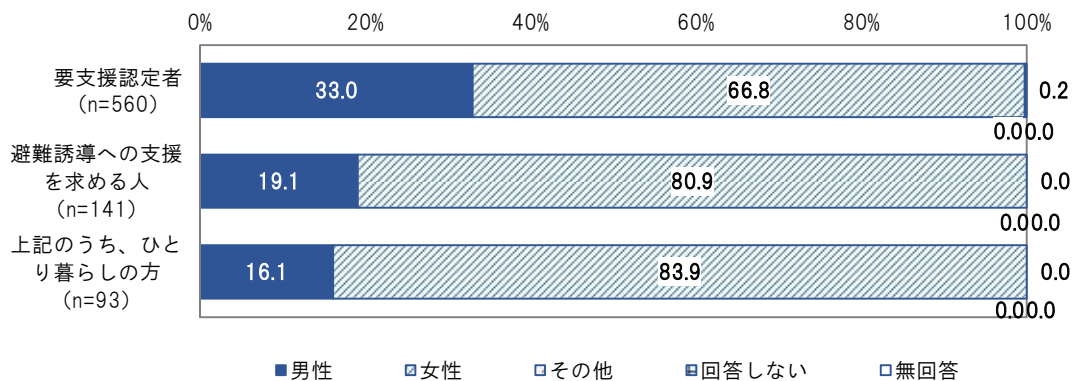
##### (1) ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導への支援を求めている回答者の傾向

(委員意見) 市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことの回答で、「ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導などの支援」と回答している人がどのような人が多いのか、回答者の傾向をクロス集計を用いて、把握しておく必要があるのではないか。

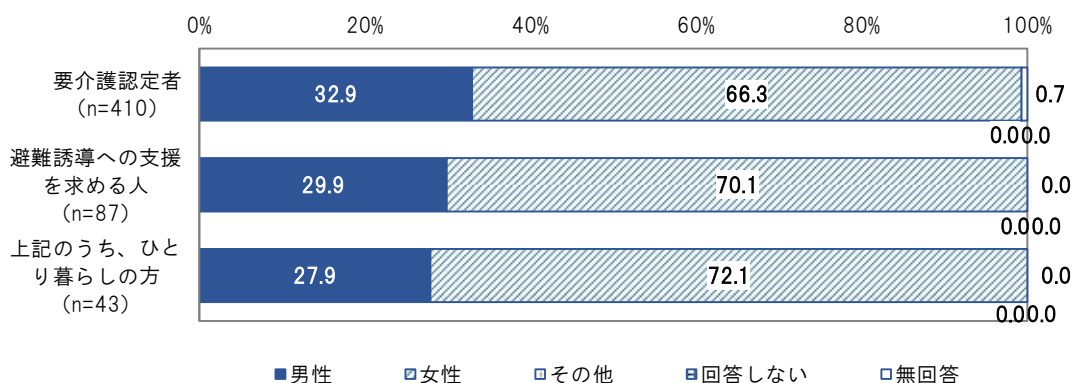
##### 《性別》①未認定者



##### 《性別》②要支援認定者

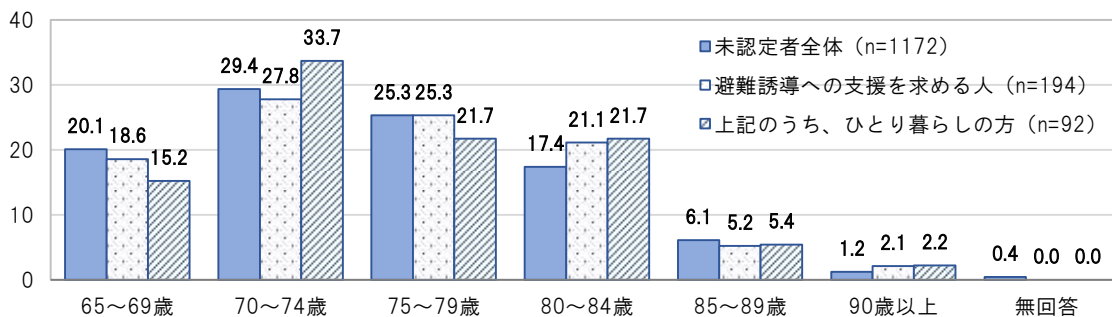


##### 《性別》③要介護認定者

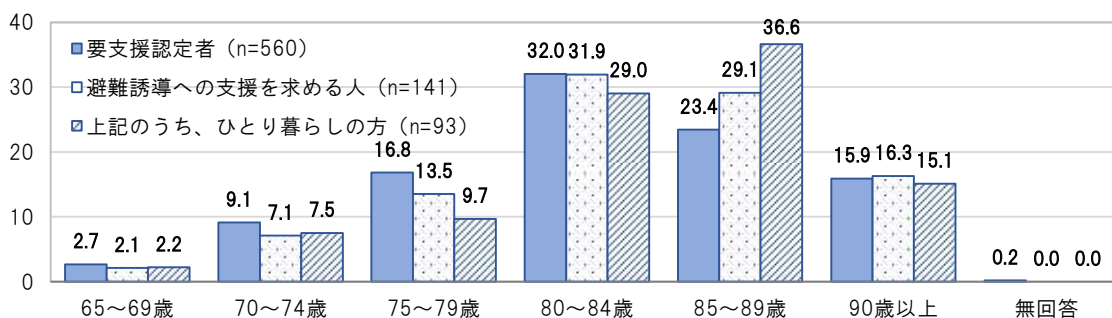




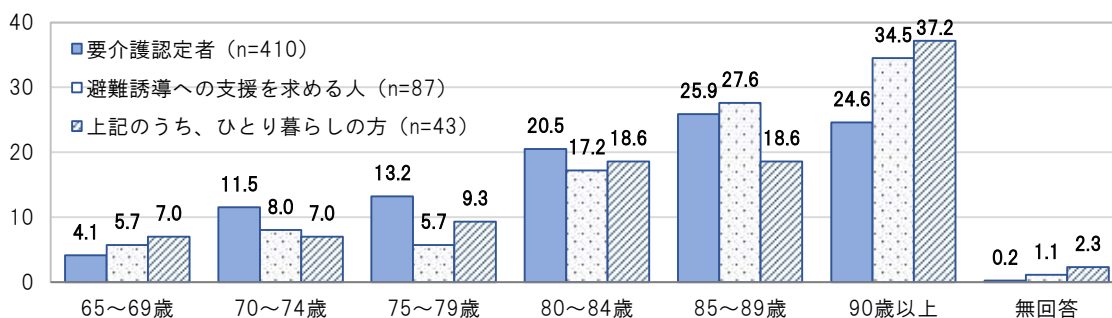
《年代》①未認定者



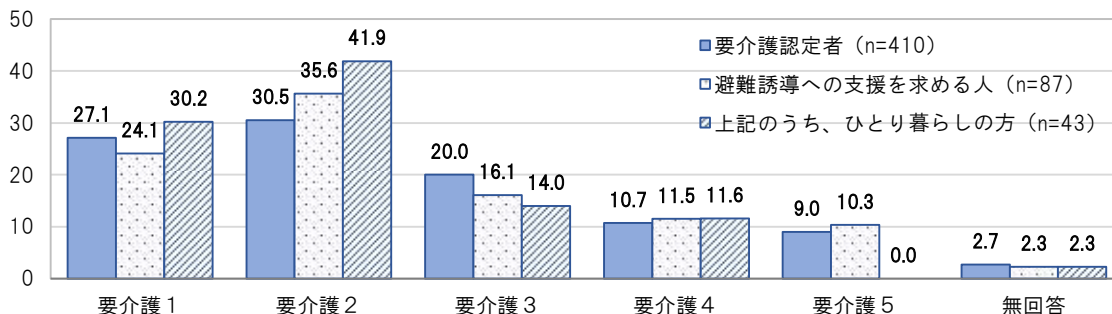
《年代》②要支援認定者



《年代》③要介護認定者



《要介護度》③要介護認定者



【考察】

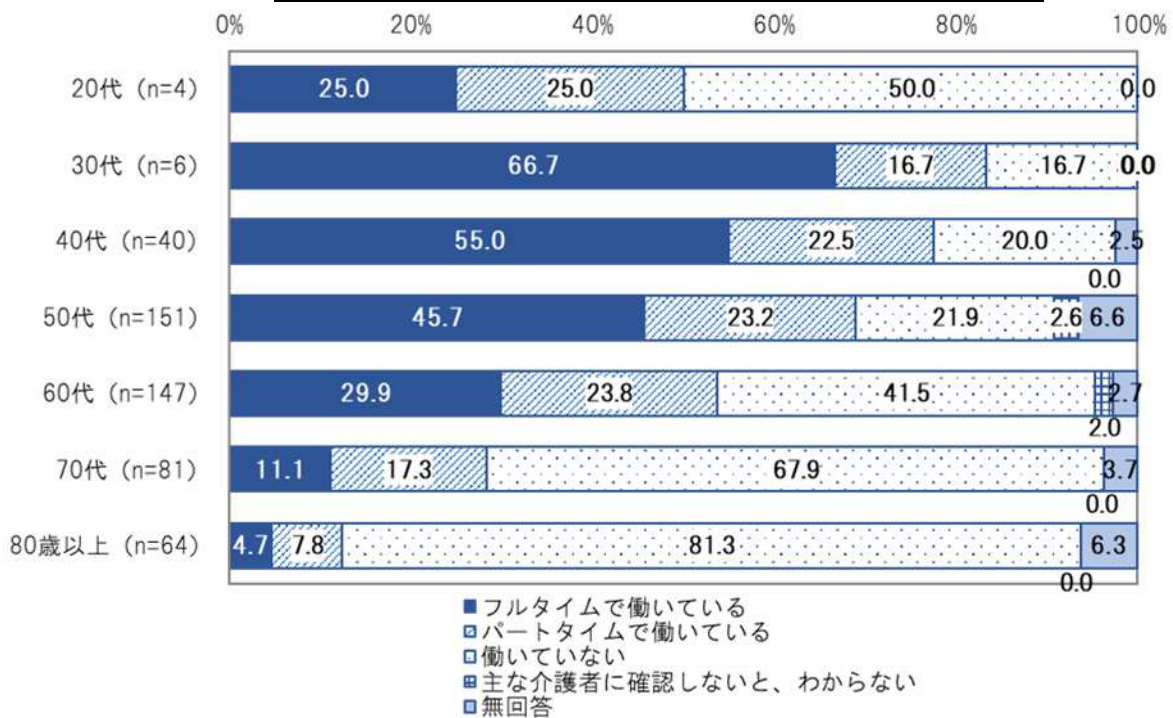
ひとり暮らし高齢者などに対する災害のときの避難誘導などの支援を望む人は、「ひとり暮らし」の方が多い。また、その性別は、男性に比べて女性が多く、年代では要支援認定者では85～89歳、要介護認定者では90歳以上でのニーズが高い。

また、要介護認定者の介護度をみると、要介護1・2の中程度の方でのニーズが高いことがわかる。

## (2) 介護者の年齢と就労状況の関係

(委員意見) 主な介護者の勤務形態は、「働いていない」が4割を超えると記載があるが、介護者の年齢も関係していると考えられるため、年齢や性別とクロス集計しても良いのではないかと。また、クロス集計をした際に、老老介護やヤングケアラーの実態も把握できるのではないかと。

	全体	フルタイムで働いている	パートタイムで働いている	働いていない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	499	153	102	214	8	22
	100.0	30.7	20.4	42.9	1.6	4.4
20歳未満	-	-	-	-	-	-
20代 (n=4)	4	1	1	2	-	-
	100.0	25.0	25.0	50.0	-	-
30代 (n=6)	6	4	1	1	-	-
	100.0	66.7	16.7	16.7	-	-
40代 (n=40)	40	22	9	8	-	1
	100.0	55.0	22.5	20.0	-	2.5
50代 (n=151)	151	69	35	33	4	10
	100.0	45.7	23.2	21.9	2.6	6.6
60代 (n=147)	147	44	35	61	3	4
	100.0	29.9	23.8	41.5	2.0	2.7
70代 (n=81)	81	9	14	55	-	3
	100.0	11.1	17.3	67.9	-	3.7
80歳以上 (n=64)	64	3	5	52	-	4
	100.0	4.7	7.8	81.3	-	6.3
わからない	2	-	1	-	1	-
	100.0	-	50.0	-	50.0	-



### 【考察】

年齢層が低いほど『働いている』人が多い傾向となっており、40歳代では8割近く、50歳代では7割近くの方が『働いている』という結果となっている。また、クロス集計では、老老介護、ヤングケアラーの実態までは、把握することはできなかった。

令和5年度第1回 計画策定部会(7/18) 委員意見表

【高齢者施策に対する委員意見】

テーマ	委員からの意見等
【テーマ1】	<p>資料3-1 P.4(6)(7)のアンケート結果で、「いきいき百歳体操」等の認知度が低いとあるが、それらの活動は、町会が活動主体であることも多いことから、参加者を増やす取組として、町会などに周知協力を呼びかけ、活動を広く知ってもらうことや、参加者増に繋げていくことも大切ではないか。</p> <p>また、災害時の取組においても、町会などに協力を求めていくことも大切であることから、単に情報を発信するだけでなく、町会などの地域と連携し、情報を発信するなどをするのが大切であると考え。</p> <p>地域包括支援センターの日頃の支援の中で、介護予防活動に関心があり、地域のいきいき百歳体操等の集いの場に参加したいという高齢者がいても、その地域でつなぐことができるいきいき百歳体操等のグループが無いという事例がある。</p>
【テーマ2】	<p>(3)認知症予防に対する考えにおいて、「予防活動等に取り組む必要を感じない」と回答した人は約2割いるが、そう感じている人に予防活動の大切さをどのように伝えていくかが課題であると感じた。</p> <p>(5)認知症の相談窓口の認知度においては、地域包括支援センターも相談窓口の一つであることを周知しているが、そのことを知らない人が約8割程度となっており、周知の難しさを感じている。</p>
【テーマ1】 【テーマ2】 【テーマ3】	<p>資料3-1 P.2 P.3を見ると、介護予防への関心度は高いが、実際に介護予防活動を行っている人は少ない。例えば、要支援の人は、フォーマルサービスで、週一回デイサービスや、デイケアに行き、残りの6日については、いきいき百歳体操や高齢者ふれあいサロン等のインフォーマルサービスにつなぎたいと考えているが、関心はあっても行くことが出来ず、結果として認知症になってしまうといった事例も多く見受けられる。今後、更に高齢者が増えていくことから、更なる介護予防・フレイル対策の推進、社会参加の促進に向けた取組を検討していく必要があるのではないかと考える。</p>
【テーマ3】	<p>市の高齢者対策として力を入れてほしいと思うことの中で、「高齢者の働く場の確保」と回答した男性高齢者が約3割となっていることについて、生活支援サポーター養成研修の受講者においても、男性の割合が増えてきていると感じている。一方で、高齢者ふれあいサロンなどの集いの場へは参加したくない男性高齢者が多いという印象も受ける。男性高齢者の社会参加や生きがいづくりにつなげるには、「はたらく」といった機会を提供できる仕組みづくりを行うことも重要なのではないかと考える。</p> <p>男性が女性に比べて約2倍「高齢者の働く場の確保」を回答しているといった結果になっているが、一人暮らしをしている高齢者においては、女性の割合が高く、所得が少ない世帯も多いことから、女性も働く場を求めている人は多いのではないかと考える。</p> <p>資料3-1 P.12(3)(3-1)の地域活動やボランティア活動への参加状況、参加意向などの設問があるが、実際に本市のボランティア活動等の地域活動は充実しているのか、それとも活動団体が少ないことで参加意欲はあっても実際に参加できないのかを把握した方が良いのではないかと考える。</p> <p>一般的な話ではあるが、高齢者を対象としたボランティア活動等への参加意向を聞いている他の調査を見ても、実際にボランティア活動等を行っていないが、調査の回答では参加したいと答える高齢者は多いといった結果になっている。社協やボランティアセンターなどが参加意向がある高齢者のニーズを捉え、ボランティア活動団体とのマッチングを行うことも大切ではないかと考える。また、老人クラブや自治会の活動が活発化することで、参加できる機会を増やすことも可能になるのではないかと考える。そうしたことから、地域福祉計画との整合性を意識する中で、計画策定に取り組んで欲しい。</p>
【テーマ4】	<p>災害発生時の避難誘導などの支援であるが、最終的には行政の力を借りて行わないといけなと思うが、地域の中でどのように避難誘導などの支援をどのように行うのかといったことが、伝わっていないように感じる。災害発生時の対応については、町会などと連携し、取り組まないといけなことから、そのような視点をもって計画策定を行ってほしい。</p>